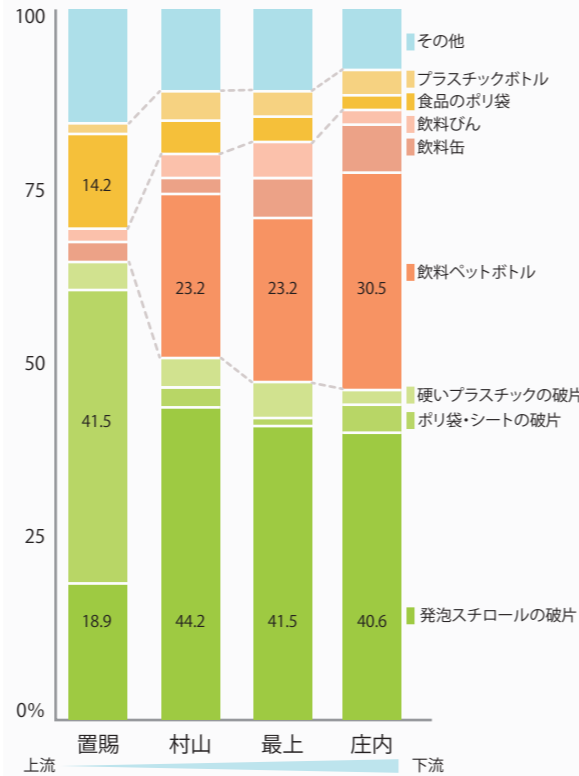


漂着・散乱ごみワースト10

【赤川】			【最上川】		
品目	個数		品目	個数	
1 発泡スチロールの破片	326		1 発泡スチロールの破片	1224	
2 飲料ペットボトル	161		2 飲料ペットボトル	790	
3 飲料缶	155		3 飲料缶	160	
4 ポリ袋・シートの破片	82		4 ポリ袋・シートの破片	130	
5 硬いプラスチックの破片	74		5 プラスチックボトル(洗剤ボトルなど)	112	
6 飲料びん	63		6 食品のポリ袋	103	
7 食品のポリ袋	63		7 硬いプラスチックの破片	97	
8 食品のスチロール容器	55		8 飲料びん	92	
9 買い物レジ袋	48		9 食品のプラスチック容器	48	
10 食品のプラスチック容器	39		10 スプレー缶・カセットボンベ	47	

最上川・赤川ともに、1~4位は同じ品目です。飲料用のペットボトル、缶、びんと飲み物に関する3品目がランクインしています。地域ごとの構成割合を見ると、飲み物に関するごみの割合が下流に行くほど増えていくことがわかります。発泡スチロールの破片は村山地域で約40%を占めており、すでに破片化が始まっています。このことから、発泡スチロール製品は捨てられてから短期間で破片化することがわかります。

【最上川】4地域ごとのごみ構成割合



最上川・赤川から、ごみを無くすには?

最上川、赤川ともに、飲食関連のごみが上位にランクインしていました。私たちの生活で使われていた物が、川を汚し、海に流れていくことがわかります。また、ごみが溜まりやすい地形や、川岸の様子がわかってきました。

▷ごみが流れ着きやすいところ

- 石堤・消波ブロック・立木があるところ
- 川が大きく曲がっているところ
- 川と川が合流するところ

▷ごみがポイ捨てされたり、放置されたりしやすいところ

- 河川敷に下りる道路があるところ
- 河川敷が利用されているところ(河川公園や畑など)

ポイ捨てしない、捨てさせない、ごみを放置しない地域をつくり、ごみのたまりやすい場所を把握し、重点的に清掃することで、川を流れ下るごみが減り、ひいては海のごみを減らすことにつながります。

また、マイバッグやマイボトルを持ち歩くなど、3R(※2)の取り組みを徹底することで、社会全体で発生するごみの量を減らしていくことも大切です。

※2 3R…リデュース(ごみを減らす)、リユース(繰り返し使う)、リサイクル(分別して再資源化)



【最上川】GPSフロート調査



GPSフロートを用いて、増水時にごみがどのように運ばれていくのかを調査しました。

- 7月9日 台風8号接近時に投下
河口部からおよそ130kmの地点、此の木橋(寒河江市)、およそ120kmの地点、支流須川の落合橋(天童市)から投下。豪雨災害をもたらした台風8号の出水で、投下した4個中3個は海へ流れ出ました。早いものでは25時間で河口部までたどり着いています。海に出たうちの1個は投下から1週間もかからず秋田県の男鹿半島へと流れていきました。
- 10月6日 台風18号接近時に投下
支流須川の落合橋(天童市)から投下。新庄市・大蔵村付近に漂着したのち、同月14日に接近した台風19号の出水で再流出。漂着と流出を繰り返しながら川を下る様子が観測されました。

